

**■美術科の目標**

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

**■美術科の特性に応じた見方・考え方**

物事を捉える視点や考え方として、表現及び鑑賞の活動を通して、よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと。

**■高知県が目指す授業づくりのコンセプト****○美術科における「学びを変える」授業づくりとは**

美術の創造活動において、発想や構想と鑑賞に関する資質・能力を総合的に働かせて学習をすすめることや、このような学びを積み重ねることです。加えて、生徒の造形的な見方・考え方を働かせ、よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る資質・能力を育成することです。その際には、生徒に形や色彩、材料などの造形的な視点をもたせ、どのような考え方で思考し、発想や構想をしていくのかということを生徒自身が理解し、自覚できるようにすることが大切です。

**○美術科における「学びをつなげる」授業づくりとは**

資質・能力を豊かに育成し、学習を深めるために、発想や構想と技能に関する資質・能力を相互に関連させたり、表現と鑑賞との関連を図ったりすることです。また、小学校図画工作科において学習した経験や身に付けた資質・能力を基に、新たな資質・能力を身に付けさせ、創造的な表現を工夫できるようにすることです。

**○美術科における「学びを高める」授業づくりとは**

造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習を充実させ、生徒に学びの必然性をもたせることです。さらに、自己との対話を深めたり、価値意識をもって他者と対話したりするなど、言語活動の充実を図り、新たな価値を生み出すことができるようにすることです。

**■美術科の特質に応じて、効果的な学習展開ができるように配慮すべき内容****○〔共通事項〕の取扱い**

〔共通事項〕は表現及び鑑賞の活動において、共通に必要なとなる資質・能力を示したものであり、造形的な視点を豊かにするために必要な知識として表現及び鑑賞の各活動に適切に位置付け、指導計画を作成する必要があります。

**○生徒が自分の夢と目標をもち、自己実現できるような指導**

表現の活動を通して、自己の夢や目標を形や色彩、材料などによって具体的な形としてつくりだしたり可視化したりすることで、自己の肯定的認識を高め、未来へのあこがれなどを思い描き自己挑戦し続けながら、自己実現を果たしていく意欲や態度を養うことが大切です。

**○言語活動の充実**

〔共通事項〕に示す事項を視点に、アイデアスケッチや扱いの容易な材料を用いて形や色彩などを試行錯誤することにより構想を練ったり、言葉で考えを整理したりすることや、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして対象の見方や感じ方を深めることが重要です。その際に、お互いの見方や感じ方、考え方を交流させることで新しい見方に気付いたり、価値を生み出したりすることができるようにすることが大切です。

資質・能力を身に付けるための表現及び鑑賞の学習活動

三つの柱の資質・能力

学びに向かう力、人間性等

主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度。

知識及び技能

対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すこと。

思考力、判断力、表現力等

自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすること。

【学習過程の工夫】

○体感を通じた鑑賞

実感的な知識・理解

造形的な見方・考え方を働かせてつくる

○知識(鑑賞)に基づいた表現

思判表・知識・技能

《既習事項との関連》

- デザイン学習の基礎(色の三要素、構成美の要素、レタリングポスターカラーの使い方等)
- カッターを含めた用具の取り扱い

《個々の生徒の状況に応じた配慮》

- ◇生徒が実感的に理解したり、意欲を高めたりするために、特徴的で親しみのある市販のパッケージを準備する。
- ◇発想・構想に配慮し、身近な地場産品を数点準備する。また、事前に生徒に地場産品について調べさせるようにする。
- ◇パッケージの素材として考えられる材料を複数準備し、生徒が表したいことに応じて選択できるようにする。
- ◇表現の用具として適切なものを複数準備しておく。
- ◇学習のねらいに応じて、適宜対話的・協働的に表現させる。

《他教科等との関連》

- 【小学校社会】高知県の暮らし
- 【中学校社会】地理的分野
- 【総合的な学習の時間】地域と関わる学習等

体感的な鑑賞で見方や感じ方を深める。

目的や用途を考えて発想・構想をする。

造形的な見方・考え方を働かせて表現方法を工夫する。

表現及び鑑賞の活動

【題材名】 多くの人に魅力を伝えるパッケージ



【表現で押さえるべきポイント】

- ・社会との関わりから主題を生み出すこと。
- ・伝達の効果と美しさなどの調和を総合的に考えること。

鑑賞

表現

【主体的に学習に取り組む力】 → 「発想・構想」「知識・技能」「鑑賞」等、全ての学習を通して育む力

【思考力、判断力、表現力等】 → 鑑賞(美意識を高め、見方・感じ方を広げる力)

【思考力、判断力、表現力等】 → 発想・構想(伝える目的や条件を基に表現の構想を練る力)

【知識】 共通事項(1)ア、イ

【知識及び技能】 → 共通事項を踏まえて発想・構想し、意図に応じて材料・用具を選んで創造的に表す力

■市販のパッケージを鑑賞する。

- ・形や色等の形状から工夫を見付ける。
- ・購入者の気持ちを考える。
- ・パッケージの役割について考える。

■ご当地産品をPRするパッケージをつくる。

- ①地場産品の特徴やアピールポイントを考える。
- ②発想・構想し、アイデアスケッチをする。
- ③構想したものを試作し、構想を練る。

Point

商品のよさ、魅力をパッケージの形・色・材料で伝えるにはどうすればいいかな?



パッケージと商品が同じ色を使っていて、中身のイメージが伝わる色だね。

- ④制作する。
- ・材料や用具の選定、イメージを伝える表現の工夫

芋の甘い感じを伝えるには、もっと黄色を濃くしたらいいかな?



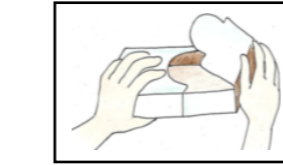
「おやつにぴったり」のロゴがいいね。おやつ楽しさと癒やしのイメージをもっと形で出せないかなあ。イメージに合う素材も探してみよう。

重さや形によって、形や材料を工夫しているんだね。持ちやすさ、運びやすさはどうだろう?



Point

パッケージの役割はなにかな?



Point

試作ができれば商品を包んで使ってみよう。どんな感じがするかな? 分かりやすさ、使いやすさはどうかな?

品物を買う人に対して、どんな魅力をどんな工夫で伝えているのかな。形・色・材料に着目して考えよう。



商品をアピールするためには、特徴やよさをしっかり捉えて、分かりやすく強調することが大切なんだね。自分だけが分かってもよさが伝わらない表現もあるね。

分かりやすさ、美しさ、使いやすさを基に、他者意識をもつて表す。

見方・考え方を働かせている子供の姿の例

- ・パッケージに込められた制作者の意図と工夫を考えている姿。
- ・身近な商品と工夫されたパッケージが、身近な生活の中で楽しさや潤いを与えているなど、美術の働きについて考えている姿。

- ・身近な商品の特徴やよさを見付け、その魅力を基に自ら主題を生み出し、目的や条件を踏まえて、伝えるための形や色についてイメージを広げている姿。
- ・表現したい意図に基づいて、形や色、材料や用具等を用いて効果的に伝えるための表現方法を、見通しをもちながら試行錯誤している姿。
- ・他者の立場に立って作品を試すことで、用と美について感じ取っている姿。

見方・考え方を鍛える教師の手立ての例

- ・市販のパッケージを基に、体験的に鑑賞することで実感を伴った理解をさせる。
- ・パッケージで商品が伝えることが生活とどのように関わっているか考えさせる。

- ・地場産品の特徴やよさについて考えさせ、地域住民としてこれからどうアピールするかについて、商品パッケージを基に発想・構想をさせる。
- ・多様な他者(購買者)や生産者の立場に立って考え、目的や条件を踏まえて構想を練らす。
- ・分かりやすさ、美しさ、使いやすさ、楽しさなどを視点とし、目的や条件を踏まえて構想を練らす。
- ・できた作品を実際に活用し、使用者の立場に立って用と美について実感させる。

主な資質・能力の系統

小学校(図画工作)

第1学年及び第2学年

絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、表したいことを見付けたり、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えること。

第3学年及び4学年

絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けたり、表したいことを見付けたり、用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えること。

第5学年及び第6学年

絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、表したいことを見付けたり、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかについて考えること。

中学校(美術)

第1学年

伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容などから主題を生み出し、分かりやすさと美しさなどの調和を考え、表現の構想を練ること。

本題材

第2学年及び第3学年

伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容、社会との関わりなどから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練ること。

高等学校(芸術)

美術I

ア目的や機能などを考えた発想や構想(ア)目的や条件、美しさなどを考え、主題を生成すること。(イ)デザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練ること。